

はに『魅力ある学校をめざして』 令和2年5月13日

「誰でも安心して楽しく過ごすことができる学校」をめざすインクルーシブ教育の研究を進め、魅力ある学校づくりをめざす小学校の3つの取組を紹介します。

1つめの取組は、教育相談コーディネーターが中心となり、「すこやかルーム（みんなの教室）」を設置したことです。各階に用意した「すこやかルーム」には様々な工夫が見られます。1階の教室は保健室に併設され、まずは学校に来るということを目標にしている児童が、玄関を通らず入室することができます。また、1・2年生が通う2階の教室は、幼稚園の雰囲気再現し、小学校とのギャップに戸惑う児童が、小学校に慣れるための工夫がされています。各階それぞれの教室でも、掲示物や机の配置などきめ細かな配慮が随所にみられました。



2つめの取組は、特別支援学級の担任と通常学級の担任が交換授業を行うことです。当初、先生たちには戸惑いもあったようですが、交換授業を行うことで、相談や情報交換の機会が増え、それぞれの工夫を知り、お互いに学び合うことができました。また、児童がたくさんの先生とかかわる機会が増えることで、先生たちの児童理解が深まり、児童の先生理解も深まるという効果があらわれました。

3つめの取組は、児童の視点を大切にした授業研究を重ねていることです。「楽しく活動することが、学びにつながっていくのではないか」、「学びの基本は知的好奇心がくすぐられることではないか」、「楽しく活動できる授業だから参加したくなるのではないか」と仮説を立て、全教員で授業改善に取り組んでいます。



左の写真は「単元内自由進度学習」を取り入れた理科の様子です。「単元内自由進度学習」とは、児童が自分で授業の進み方（コース）を選び、自分たちのペースと方法で進めていく学習のことです。説明を受けてから実験に取り組むグループ、試行錯誤しながら実験を進めていくグループ、タブレットに実験をまとめているグループに分かれています。どのグループの子どもたちも、それぞれの課題に意欲的に取り組んでいます。「子どもを授業に合わせるのではなく、授業を子どもに合わせる。」子どもたちの多様性に対応し、学習意欲の向上をめざしています。

今までの当たり前縛られず、児童にとって、より魅力的な学校づくりをめざして、先生たちは今日もみんなで試行錯誤を繰り返しています。

『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。